



(1) Yawaragi Basis

「平等」「寛容」「利他」の理念を表す4つの科目群からなる学部横断型の教養教育。建学の精神であり仏教精神を象徴する「以和為貴」をYawaragiと表現。時代がどう変わっても必要とされる、社会で活躍するための基礎力と豊かな人間性を養っている。

(2) DX推進センター

AI・データサイエンスの専門研究者を中核に配属し、未来を担うDX人材を育成。企業や自治体からのデータ解析や特化型AI開発の受託により、地域の学校教育、経済、看護などのDXも積極的に支援しており、DX推進の「地域インフルエンサー」となることを目指している。

(3) クリスタルプラン

文部科学省の「教員養成GP」にも採択された独自の実践教育プログラム。連携している地域の教育現場で経験を積む「教職体験科目群」と、サークル、インターンシップ、ボランティアといった子どもと積極的に関わる学生の自主的活動を評価する「子ども理解活動」を2つの柱に、指導力、企画力、運営力を鍛えている。一般的には教育現場へ赴く機会は教育実習のみだが、同大では「学校ふれあい体験(1年次)」「教育実践観察(2年次)」などの多彩な実習体験を提供。4年間を通じて教育現場に足を運び、教員になるための土台を築いていく。

(4) 教職教育センター

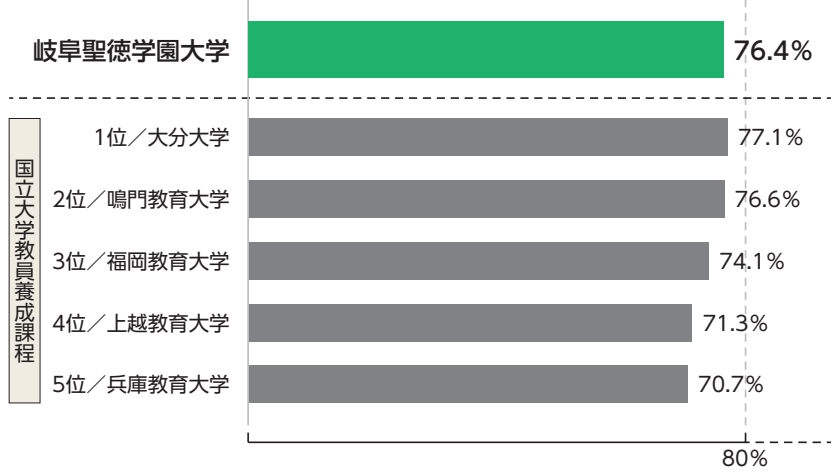
教職課程課、教職教育研究課、教育実習課、教職支援課が連携し、きめ細かいサポートによる質の高い教員養成を実現。就職課とも緊密に連携し、学習途中での進路変更にも柔軟に対応する。教員を目指す全学部の学生に対し、一人ひとりの希望と適正に応じた未来の実現を全面的にバックアップする。

大切にしながら自分なりの答えを導き出す必要があります。だからこそ、これからは人文、社会、自然科学からなる「総合知」の涵養が大切です。岐阜聖徳学園大学では、異なる学部の学生が共に学ぶ学部横断型の教養教育「Yawaragi Basis」を展開。建学の精神を支柱に、「共に生きろ」^①、「共に支え合う」^②、「共に学ぶ」^③に拓く^④の4つの科目群からなるカリキュラムで「総合知」を育みます。さまざまな学部の学生が集まって知恵を出し合う中で、広い視野や共感性が育っていく、同大学を象徴する教育となっています。



2023年3月卒業生 大学別「教員就職率」(国立大学教員養成課程との比較)

2023年3月卒業生の教員就職率は76.4%で、国立大学教員養成学部ランキングの3位に相当。50年を超える歴史の中で培われたノウハウをもとに、教員経験者による講義や教員採用試験対策講座をはじめ、県教委勤務経験者を招いた講座や論文対策まで、教員採用試験突破に向けて、万全の対策を実践しています。



※文部科学省報道発表より

ケージョンの中身の重要性が高まっていることがあり、観山学長は話します。「言葉の中には育った環境や歴史文化があふれてくるのです。スマホで同時通訳ができる時代に、人間と人間の付き合いの中で信頼関係を築く上では、語学のスキル以上に『何を込めて話すか』が大切になります」。人文学部には英語英米文化、日本語日本文化、歴史地理の3専攻を用意。外国語や世界の多様な文化を学ぶほか、日本語や日本の文化・歴史を深掘りすることもできます。デジタルを活用しながら人間と文化を学ぶことで、「人間だからこそできる価値創出」が求められる時代に活躍できる「多様性と寛容性を持った人材」の育成を目指します。

また、教育学部では従来の「保育専修」を「保育初等教育専修」に改組。文部科学省の「幼保小の架け橋プログラム」に代表される「幼保小連携」の活発化を背景に、幼稚園・保育園と小学校、いずれの免許・資格も取得可能なカリキュラムへと進化します。「園ごとの裁量が大きい幼稚園や

保育園と、決められたカリキュラムのもとで学習する小学校とは、学び方に大きな違いがあります。そのギャップに不安やストレスを感じる子どもも多く、不登校の原因にもなっています。幼児と小学校、両方の教育を理解している先生への期待は大きいのです(観山学長)。少子化が進んで競争が激化すれば、各園は教育の特色を打ち出す必要も出てきます。早期教育が生涯にわたる影響を及ぼすという研究もあり、意欲や協調性といった「非認知能力」を伸ばす幼児期の教育への関心も高まっています。岐阜聖徳学園大学が短期大学の学生募集を停止して4年制学部への移行を進めるのも、今後の幼児教育の変化を見据えた動きといえるでしょう。

伝統と実績の実践的教員養成 全学部向けの教職支援も拡充

岐阜聖徳学園大学の教育学部は開学時から長い歴史を有しており、全国の学校現場で多数の卒業生が教員として活躍しています。「教員になるなら岐阜聖徳学園大学へ」と言われる確固たる実績を支えるのが徹底した実践教育であり、独自の「クリスタルプラン」^⑤はその一例です。同大では全学生が1年次から、提携学校を毎年訪れて教育現場を体験。実際の現場で子どもと関わる中で、子どもへの理解力や対応力といった教員に欠かせない資質が醸成されます。



みよましようけん 観山 正見学長
1975年京都大学理学部物理学科卒業。81年同大学大学院理学研究科博士課程修了。天文学者、宇宙物理学者。国立天文台台長、広島大学特任教授、神戸大学大学院理学研究科付属惑星科学センター特命教授センター長などを経て2021年より現職。

羽島キャンパス▼〒501-6194 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地
岐阜キャンパス▼〒500-8288 岐阜県岐阜市中鶯一丁目38番地 入学広報課 TEL 058-278-0727 https://shotoku.ac.jp

ぎふしょうとくがくえん 岐阜聖徳学園大学 教育学部 学校教育課程

「以和為貴」の精神を大切に 総合知を育む豊かな人間教育
聖徳太子の『十七条憲法』の第一条にある「以和為貴」(和をもって貴しとなす)や、「平等」「寛容」「利他」を建学の精神に掲げ、仏教精神を基盤とした豊かな人間教育に取り組み岐阜聖徳学園大学。現代の競争社会においても、相手をリスペクトして話し合うことは重要だと観山正見学長は話します。「海外の人と一緒に仕事をする場合でも、日本人的な『以和為貴』の信念は大切です。プロジェクトを動かすにはメンバー全員に働いてもらう必要があるからです。自分の特色を生かすだけでなく、平等・寛容に相手と接し、どれだけ貢献できるか。本学の卒業生にはこうした観点を忘れることなく社会で活躍してほしいですね」。現代の学生は複雑さを増した「応用問題」ばかりの激動の社会に出ていきます。大学で学んだ知識をそのままの形で活用するのは難しく、大学での学びを基礎に、学業以外のあらゆる知識や経験などの「教養」も

大切にしながら自分なりの答えを導き出す必要があります。だからこそ、これからは人文、社会、自然科学からなる「総合知」の涵養が大切です。岐阜聖徳学園大学では、異なる学部の学生が共に学ぶ学部横断型の教養教育「Yawaragi Basis」を展開。建学の精神を支柱に、「共に生きろ」^①、「共に支え合う」^②、「共に学ぶ」^③に拓く^④の4つの科目群からなるカリキュラムで「総合知」を育みます。さまざまな学部の学生が集まって知恵を出し合う中で、広い視野や共感性が育っていく、同大学を象徴する教育となっています。

2022年に創立50周年を迎えた岐阜聖徳学園大学では、前述のような「応用力を備えた人材の育成」を目指して次の50年に向けた大胆な変革を実行しています。その一つが次世代デジタル人材の育成です。これからの日本の発展にDX(デジタル技術による変革)は欠かせませんが、企業だけでなく市区町村、学校、病院などあらゆる組織でDXの推進は課題となっています。専門的なIT人材だけでなく、社会のさまざまな領域で活躍する一般の人々がデジタル技術を使いこなせるようになることが必要不可欠なのです。こうした社会情勢を背景に、文系志向の学生が多い岐阜聖徳学園大学でもICT(情報通信技術)教育を

2025年に人文学部を新設 AI時代の価値創出を追求

時代に合わせた大学改革も進みます。25年度には「AI時代に人間と文化を学ぶ」をコンセプトとする人文学部が、既存の外国語学部を母体に新設されます。今回の改組の背景には、コロナ禍を経た外国との関わり方の変化や、DXの進展でコミュニ

50年以上に及ぶ歴史で培われた信頼と実績 徹底した実践教育による教員養成立 社会のDX推進を担う人材育成にも注力

大切にしながら自分なりの答えを導き出す必要があります。だからこそ、これからは人文、社会、自然科学からなる「総合知」の涵養が大切です。岐阜聖徳学園大学では、異なる学部の学生が共に学ぶ学部横断型の教養教育「Yawaragi Basis」を展開。建学の精神を支柱に、「共に生きろ」^①、「共に支え合う」^②、「共に学ぶ」^③に拓く^④の4つの科目群からなるカリキュラムで「総合知」を育みます。さまざまな学部の学生が集まって知恵を出し合う中で、広い視野や共感性が育っていく、同大学を象徴する教育となっています。

